



## 脳離れ

### 肉離れ vs. 脳離れ

「肉離れ」という単語が国語辞典に載っている。筋肉が離れる(切れる)というのだから、いかにも痛そうである。これに対して「脳離れ」という単語はどこにも載っていない。実は私の友人の造語である。

私自身が脳離れという単語を強く意識したのは、頭の内部が2つの部分に引き裂かれたような感覚を覚えたときだ。それは外傷ではなく、内部の感覚である。

それは10年以上も昔のことだ。米国から講師を迎えて都内で講演会が開かれていた。内容はコンピュータサイエンスの理論的な話で、それは私の専門分野である。私は最前列で聴講をしていた。このような話は通訳が大変に難しい。結局、私が通訳者の隣の席に移り、訳語について適宜メモを渡すような羽目に陥った。

この臨時通訳者としての仕事は、予想以上に難しく、疲れた。英語を聞き、日本語に訳すだけであるが、瞬時に行う必要がある。これを数時間行って、帰路、地下鉄に乗った。そこで驚いたことには、私は電車で周囲に乗り合わせた人々の会話が聞き取れない。正確にいうと、声は聞こえるのに意味がわからない。

そのような現象に驚いていると、いつの間にか、聞き取れるようになった。その原因はすぐに気が付いた。電車の中の人々は日本語で会話をしている。それを私は英語として聞き取ろうとしている。それで意味がサッパリわからない。それが一瞬だけ起こって、すぐに日本語モードになる。

人間の頭脳は、英語から日本語に切り換えるのに時間がかかるらしい。それは当然のような気がする。コンピュータだって瞬間には切り換えられない。同時通訳者には相当のストレスがかかるという話を聞いたことがある。私は上の経験をしたあと、通訳のような仕事はなるべく引き受けないようにした。

### マジックナンバー「7」

人間の頭脳には種々の限界がある。心理学によると、人間の短期記憶の個数は7であるという。この個数には個人差があり、7プラスマイナス2であるともいう。この短期記憶というのは文字どおり短時間だけ覚えている



もので、数十秒から数分という時間である。人間の記憶には長期記憶と短期記憶の2種類がある。歴史の年号を暗記して覚えておく場合は長期記憶が使われる。それが一夜漬けの場合でも長期記憶である。

人間は、自分の行動や周囲の状況のすべてを、長期間覚えているわけではない。そのつど短期記憶を使って仕事をする。その短期記憶の個数が7であるから、人間は多くのことを同時に処理できない。そのようなことを試みると必ず失敗する。この教訓をときどき忘れてしまう。

たとえば電話で相手の電話番号を教えてもらう。その番号にすぐ掛け戻そうとすると、別の電話がかかってきて、話をしているうちに先の電話番号を忘れてしまう。メモをとっておけばよかった。その点で電子メールは便利である。途中でほかのメールを読み書きしても、前のメールはちゃんと残っている。

### 忘却曲線

人間の頭脳には別の限界もある。せっかく記憶したはずなのにどんどん忘れてしまう。心理学の忘却曲線によると、2日間経過すると記憶の分量は3分の1くらいになっている。これは試験の前日の一夜漬けの有効性を示している。この記憶は、2晩はもたないと覚悟したほうがいい。

私も他人のことを非難できない。ある日の夕方、久しぶりにゆったりと家で過ごしていると、電話が鳴る。学生時代の友人からだ。「後藤君、今晚の会合に出席の返事をくれていたよね。おっと、すっかり忘れていた。まだ間に合う。遅刻するけど駆けつけよう。

この前の某委員会などは、知らせてもらったときには会合が終わっていた。スケジュールの管理を記憶に頼るのは危ない。頭脳も体のうちだ、大切に使おう。

Illustration: Harada Kaori



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)